

## 意見交換の概要 (平成 30 年 8 月 7 日(火)・リビエラ東京)

### 1. 平成 30 年 7 月豪雨で得られた教訓・課題について

18 年間、愛媛で過ごしてきたが、愛媛はすごく平和なところで、災害が起こらない地域というイメージが強く、今回の大雨は、すごく驚いた。南海トラフ地震が起こる確率が、愛媛では高いと言われているが、南海トラフでは、西日本が全体的に被害を受ける可能性があり、茨城からろ過機を持ってくるような今回受けたような支援は受けられなくなる。そういったときに、今回の大雨で得られた教訓、課題を教えてください。

#### 【知事】

南海トラフについては、発生確率が高まっているという指摘があります。東日本大震災と同じ構図が起こると考えています。日本海の海底 1 万メートルというところで 2 つのプレートが重なっていて、東日本大震災では、1 つが片方にもぐり込んでいたところ、瞬間的に片方のプレートが 8 メートルせり上がったといわれており、そのせり上がった膨大なエネルギーが、1 万メートル上の海水に伝播して大津波が起こったと言われています。実は、南海トラフ地震は全く同じ構造で、場所的には徳島、高知の沖ということになります。東日本大震災クラスの災害が起こる可能性があります。プレートがつながっているので、ここがずれるとここがずれることになります。関係する 10 自治体共同で対処するような取組みを続けてきています。

これまで、法律の制定を国に呼びかけたり、防災のための補助制度の整備・新設をしたりいろんなことをやってきました。ただ、東日本大震災クラスになると、いくら備えても全部阻止することはできません。まずは、命を守ること。物は壊れても直すことができます。愛媛県で言えば、愛南町から八幡浜市に渡る宇和海は、高い津波が襲ってくる可能性が高いです。これに対しては、集落ごとに避難所、避難ルートを決めておくことを急ピッチに行っています。災害が起こった場合の避難所をどこにするか、仮設住宅が必要になった場合、どこに設置するか決めておく。何か起こったことに対する備えというのを今、徹底的に行っている状況です。

もう 1 つは、減災対策です。家庭でもできることはたくさんあります。たとえば、タンスを固定するなど、手軽にできる減災対策を呼びかけていくということも大事です。

拠点になる場所、高校などの校舎は、耐震工事を優先的に行っています。今、最悪の場合、どの程度のことが起こるのかということはシミュレーションできているので、それを 7 割減災させるために何が必要かということを実践的に進めているところです。これは終わりなき戦いであると思っているので、徹底的に追求していきます。

他県との相互支援が難しくなるのではないかと質問ですが、仕組みは既に作っていて、中四国地区で何か起こった際のカウンターパートナーは広島になっていました。次も順番が決まっていました。西日本一帯がダメな時は、中部、東京との連携となります。これは全国知事会議で、どこが支援するかということを決めていて、災害が起こった時に機能するようになっています。今回は、こういった仕組みがとても役に立ったことは間違いありません。

### 2. 離れていてもできる被災地支援について

今回の大雨被害について、愛媛から離れていてもできることを考えて、新橋のアンテナショップで高校の出身者を募って募金活動を行ってきた。実際、離れていると災害の実感が得られず、何をしたらよいかということがわからない状況であった。離れていてもできる被災地支援があれば教えてほしい。離れていると風化してしまっていて、現地は大変だけれども忘れ去られてしまう状況のなかで、その際に継続してできる支援の方法などあれば教えてほしい。

## 【知事】

東京で遠く離れて何ができるかと言うことですが、僕も東京の友人にお願いしたのですが、アンテナショップで愛媛県のものを購入してほしいです。特にかんきつなどを買ってほしいとお願いしました。愛媛県産のものを買うというのは、一番、呼びかけやすいかなと思います。そのためには愛媛県人として、愛媛県産のことを知らないでPRできないので、ぜひこの機会に愛媛県産についてどういうものがあるかという知識を得て、呼びかけてほしいです。これが無理のない自然な支援になるのかなと思います。

もう1つは、「愛媛に旅行へ行ってよ」と呼びかけることです。被災地以外は、まったく問題ありません。道後温泉は、被害を受けていません。

風評被害でキャンセルが続出しているというのが現状です。キャンセルをする人の中には、危ないから止めておこうという方などがいると思いますが、被災しているところへ行って観光気分で遊んでいていいのだろうかと考えている方もいると思います。「こういう時こそ、笑顔で愛媛へ行ってもらったほうが、地域は元気になる。」ということ伝えてほしいです。

今後は、同じ状況の広島、岡山、愛媛で3県共同で観光キャンペーンをやっていきます。先週、国から予算が取れましたので、ふっこう周遊割といってこの3県にまたがって旅行をすると割引をするという商品が夏の終わりから秋にかけて旅行会社から出てきます。これもまた宣伝をしていただけるとありがたいです。

### 3. 起業を目指している若者に対する支援について

愛媛には、優れた技術をもった企業や観光業などがある。起業を目指している若者に対して、何か支援などはあるか。

## 【知事】

起業についてですが、僕らの時代とこれからの時代は大きく違うと思います。僕が商社にいたころは、世界における日本の経済力はたいしたものでした。今も経済力、技術力は、たいしたものではありますが、急速に韓国、中国といったアジア諸国の成長が目まぐるしいです。また、若い世代がすごいがんばっています。今、日本の人口構造は、1億2,000万人が逆ピラミッド型になっています。昔は、若い人が多いピラミッド型でした。

日本で1番多く赤ちゃんが生まれていたころは、年間270万人くらいでしたが、今は100万人くらいです。これからどんどん人口が減っていってしまいます。

今、若い人がどんどん減ってしまっているのが、日本の平均年齢は47歳となっています。ところが、アジアはかつての日本のようで、インドネシアが2億6,000万人、平均年齢が30歳。ベトナムが9,000万人で、平均年齢31歳。フィリピンが1億人くらいで、平均年齢24歳という若者がひしめき合っているアジアの国々が、将来、日本に追いつこうとしてくる状況に渡りあっていかないといけないのが、みんなの世代です。

ぜひ、国際化という視点を持ちながら、いい意味でのパートナー関係を築きながら、負けないようにがんばってほしいです。たくましさを持ってやってほしいと思うし、ビジネスのチャンスも人々の考えが多様化しているからこそ生まれ始めているかなと思います。IT分野が脚光を浴びてからビジネスチャンスというものは格段にひろがってきました。ITをどのように活用するかは、大手企業ではかゆいところに手が回りません。続々とIT企業が誕生していったという経緯もあります。そのためには、どうすればよいのかということになるが、愛媛でも起業家を育成するための講座を大学で行ったり、金融機関が特別な融資制度を作ったりと地方であるからかゆいところに手が届くというようになち密な企業支援というバックアップする体制もありま

す。東京で一旗揚げるともいいけれども、地域のそういうサポート体制もみてどちらでスタートするかを考えて、地域も選択肢の中に入れて、問い合わせをしていただければいいと思います。

#### 4. 所有者不明土地の増加を踏まえた愛媛県のまちづくりについて

先日、日経新聞で所有者が不明な土地を都道府県知事の裁可で所有権、使用権を設定できる法律が通過したという日経新聞の記事を見た。これから人口が減る中で、所有者不明の土地も増え、行政機能が維持できない自治体も出てくると思うので、愛媛県がまちづくりを行っていくうえで考えていることを伺いたい。

##### 【知事】

所有者不明土地は多く、権利が複雑化しており、危険区域であっても、行政が勝手に手を付けるとトラブルとなるので放置されています。通学路にある崖などを整備するためにも法律の制定は大切です。大きな目でみて、こういった土地をどのようにするかは、市、町、県といったレベルではなく、まちづくりを担う市町の基礎自治体がプランニングをし、それに対して県はどのようなことが協力できるか指導することになります。

まちづくりのプランは市町単位でどうするかで決まっていくものだと思います。松山市長時代は「坂の上の雲まちづくり」を手掛けました。フィールドミュージアムとして松山全体を小説のミュージアムとして相關関係を作っていこうという発想でした。そこで取組んだのが道後温泉の整備、ロープウェー街の整備、堀之内公園の整備です。これらをパッケージとしました。道後温泉本館前は車が多く、記念写真も命がけで苦情が多かったです。そこで温泉周辺の土地をすべて買収し、道後温泉前は車の通行を全面通行禁止とし周回路を作り、街を蘇らせました。

ロープウェー街はボロボロのアーケード街でしたが、みなさんに立ち上がってもらい2年間かけて電線の地中化工事や景観整備を行いました。現在は整備前と比べて土地の価格は急上昇し通行量は3.6倍、空店舗はゼロとなりました。

堀之内公園は競輪場、がんセンター、プールがあつてグチャグチャでしたが、全て移転し、街のセントラルパークという形で街を作ろうとしました。このように絵ができる土地の有効活用の発想が湧いてきます。この場所は所有者不明だという小さな点だと何ができるかわからない、まずは大きなランドデザインを市町単位で作ることが大事だと思います。

#### 5. 企業誘致の考え方について

就職活動を東京で行って、いろいろ考えて最終的に東京で就職することに決めた。東京の企業を愛媛に誘致する際、知事としてはどういった企業を誘致したいのか。工業団地とかそういったことではなく、サービス業種などこれからどういった企業を誘致して愛媛県を活性化したいのか伺いたい。

##### 【知事】

企業誘致ですが、先ほど東予、中予、南予の違いを説明させていただきましたが、これにより誘致を狙う企業が変わってきます。例えば、東予だと産業が盛んなので、ものづくりを支える高度な技術力、加工技術をもった中小企業がたくさんあります。このネットワークを活用したいと思う企業の誘致を狙います。もう一点は、既存の企業の業界を膨らませるために必要と思われるような企業、例えば、造船関連の企業です。産業のすでにあるツールを活用できるような企業にターゲットを絞っていきます。

南予ですと、第1次産業を生かせるような食品加工の企業に目を付けます。南予は物流の面と言うと非常にハンディキャップがあります。しかしながら、新鮮な素材を生かしたいという企業

はあり、昨年3社誘致できました。1社は、日本で最大の和菓子メーカー源吉兆庵という会社で本社は岡山にあります。銀座に自社ビルがあり、世界中に店舗展開をしています。その会社が求めている品質の商品を責任をもって供給できるのであれば、その場で加工して世界に出したいということで、地元の人達が生産に従事し、今年から工場が稼働しています。もう1社は、ちぬや（株式会社 味のちぬや）という冷凍コロッケの日本最大のメーカーで、昨年、西予市に誘致ができました。もうひとつは、大阪に本社のあるプロテックスジャパン、愛媛県出身の企業家で全国の化粧品のOEM生産をしている会社で、松野町に工場を作り、愛媛の真珠を使った化粧品、柑橘を使った化粧品の生産をしたいということでした。真珠、かんきつと地域の特性を生かせば、企業誘致はできると痛感した1年でした。

松山市長時代、松山市は商業都市でした。第3次産業を誘致するために必要なものとして、今から15年位前なので、今では当たり前のことではありますが、どこよりも早く一気にケーブルを敷設するというのを考えました。NTT、au、CATV会社を呼んで、今後2年間で3社が協力して一気に光ファイバーを引くのであれば半額を助成します。ただし、2年間限定で、3年目からはゼロにしますと伝えると3社は、協力して5ギガの光ファイバーを3,500キロメートル松山市内に張り巡らせてくれました。これを武器にいろんなデータセンター会社へアプローチし、14社誘致できました。その中には、サイボウズ、NTT西日本、ベネフィットワン、デジタル・インフォメーション・テクノロジーなどの企業があり、その企業だけで3,000人くらいの雇用が発生しました。松山市は、第3次産業を中心とした誘致が効果的であると考えています。東・中・南予の地域の特色を生かした企業誘致をやっていきたいと考えています。

## 6. ハード面だけでなくソフト面の防災対策について

学校で都市計画などを学んでいる。今回の自然災害で崖崩れの防止などを行って行くと思うのだが、ただでさえインフラの老朽化と言われているなかで、おそらく10年後はもっとと言われると思う。今すぐにできるのは、ハード面の整備ではなくソフト面で、まずは、市民イベントなどで対応していくのがよいのではないかなと考えているが、これに対して知事はどう思われるか。

### 【知事】

災害対応のハード対策については、時間がかかります。お金はありません。平成5年に国会議員だった時、日本の国債発行額が195兆円でした。200兆円を超えると歯止めがきかなくなるからこれを食い止めなければいけないということを議論しました。今、御存知のとおり1,000兆円を超えています。いったい、どうするのだと思います。これを一体どうやって返すという答えを明確に持っている人間は、政治家、官僚の中にもいないと思います。こんなことを続けていたら、いつか破綻することはわかっています。今、まずいという雰囲気だけはあります。こういった財政状況ですから、老朽化したものを、お金で解決することはできません。もしやるとすれば税金を上げるしかありません。社会保障の制度もどうするかという問題もある中で、ハード面の老朽化をどうするかということは財源的には非常に難しいです。例えば、より安い手だてでこの方法であれば強度が上がりますよ、というような技術の開発なども期待をしたいと思うし、コミュニティというのは本当に大事で、ソフト対策という範疇に入れてもよいと思うのですが、例えば、今回の災害のときでも「避難してください」と言っても頑なに避難しない人もいます。助かっている人が多い地域は、コミュニティがしっかりしている地域で、普段から避難の練習もしていますし、今回も一人残らず避難できています。地域コミュニティの力が大災害のときに大事であるということは、今回の災害で立証されたと思います。愛媛県では、コミュニティごとに防災士の資格をもった人を配置することを進めています。これは公費で行うということを決めて、講習費

用は、公費で実施しています。県内には、防災士の資格を持った人が1万1,000人います。全国に2番目に多いです。1番多いのは、東京都で1万2,000人。これは人口140万の愛媛県に対してはかなり多く、特に力を入れているところです。

## 7. 首都圏で実施される就職説明会について

就職活動を終えて感じたことがあった。結局、東京で就職を決めた。でも、愛媛が好きなので、愛媛に帰りたいなと思った。厚生労働省が主催している愛媛での合同就職説明会に出席したが、正直、惹かれる企業がなかった。そこで愛媛へ帰ることはあきらめた。県外に出ている学生をもっと支援してほしい。合同説明会もあったが、東京で実施されている企業説明会で、愛媛の企業の方にも積極的にPRしてもらえたらと思った。

### 【知事】

ジョブカフェ愛work主催の合同説明会は、60社くらいが参加しています。これは、同窓会などからもアピールをしています。3年前からこの説明会に出席する学生には、片道の旅費を補助する制度があります。県外全ての都道府県を対象としています。これも活用して愛媛県の魅力的な企業に触れてもらいたいです。ただ、ものづくりの企業の人は、プレゼンが苦手なこともあって、技術力はある会社なのだけれどもうまく伝えられないかもしれません。ものづくりの会社の社長さんなんかは朴訥な話し方で、学生さんたちにもっとうまく、アピールすればよいのになあと思うこともあります。

## 8. 私人としての知事が好きな愛媛について

私は、知事と普通の会話がしたいなと思ひ質問したい。先ほど、知事が愛媛県は3つに分かれていて、それぞれ産業形態も異なっていると言っていたが、それは知事という役職についての方の意見であって、純粋にひとりの中村さんが好きな愛媛を教えてください。ちなみに、私は今治出身なので、今治からみえる景色が好きである。

### 【知事】

僕が、好きなところは、サイクリングです。しまなみのサイクリングは、この世の天国です。世界のサイクリストの聖地になりつつあります。これはよくできています。初心者の方には、最初の島へ行って戻ってくるのが24キロメートル。次の島まで行ったら40キロ。次は60キロ。自分の体力に応じてコースが自由に選べるというのが、しまなみ海道の特徴です。そこにあるのは、空中散歩の世界です。一番高いところが海拔80メートル。サイクリング専用道路であるので自分の好きな所で止まって、風景を楽しめます。その風景も紺碧の海に浮かぶ無数の島々という原自然の風景もあれば、巨大タンカーや貨物船、船を通じて世界とのつながりを妄想できる場所もあります。村上海賊の拠点でしたので、古代の歴史も感じられます。しまなみ海道の空間にいただけで、古代から現代、世界まで感じられるすばらしい風景があります。また、大島に到着すると道の駅では、獲れたてのタイやアワビ、サザエなど自分の食べたいものを選んで七輪を貸し出してもらって炭で焼いて食べることができます。これは天下一品です。また、村上水軍博物館の潮流体験です。ある時間になると潮流が逆流します。これは海が生きているような体験ができます。ある時間帯がくると、潮流が逆流する時間がわかっていますので、それに合わせて小型遊覧船が出ます。潮流に付くと、船がエンジンを切って、潮流に流されるのだけれどもこれが豪快です。毎年2回は行きます。これはぜひ、宣伝してほしいと思います。

昨年、ロシア人の集団が来て、その人たちもこの世の天国とはこのような場所を指すのだろうと言っていました。それほど魅力があると思います。

## 9. 中小企業の人員不足への対応策及び外国人労働者の雇用について

今、空前の売り手市場ということで、中小企業での人員不足などがあると思われるが、愛媛県としての政策や外国人労働者の雇用などに対する政策などがあれば教えてほしい。

### 【知事】

労働力の不足については、これは日本全体の深刻な課題になってきています。愛媛県でも外国人労働者は多くなってきています。かつては、中国人が多かったですが、4年前に一人っ子政策、経済成長などがあってなかなか人手を確保できなくなってきました。そこで、6年前にベトナムへ行きました。ベトナムへ行った理由は、最近、外国人労働者が行方不明になったり、受け入れ先の企業の待遇が悪かったりなどのトラブルが起きているためです。中小企業団体（中央会）と愛媛県がタイアップして、ベトナムの政府機関を窓口にして、ベトナムの送り出し機関で日本語の研修などを実施して日本へ来てもらっています。6年前は、ベトナム人労働者は、200人程度でしたが、現在は2,000～3,000人います。そのあとミャンマーも開拓しようとしたのですが、ミャンマーには一人送り出すごとにいくら支払わないといけないといくともない制度があって、これは断念しました。企業がそんなお金を支払うのでは、人件費が安くても割に合わないとなりました。

次に、今年行ってきたカンボジアです。人口は3,000～4,000万人です。昔のカンボジアのイメージは、ポル・ポト政権の大虐殺や地雷などの残虐なイメージですが、今は平和で完全に中国に沈静されています。そこで、カンボジアでもベトナムと同じような仕組みを作ってきました。世界を視野に入れながら、安い労働力だけを得るためにこういったことをしているわけではなく、循環型のシステムを考えていてお互い得をするようなことを考えながら、外国の安い労働力の活用を考えていきたいです。

県外に出てしまった人材、新卒者だけではなく、中途採用を含めての採用については企業と一緒に取り組んでいるところです。根本は、日本の国自体が海に囲まれている単一民族国家の習性なのか陸続きの他国と異なり、移民を積極的に受け入れない政策をとってきた経緯があります。今、介護士が不足しています。外国から介護士の勉強にやってきて、日本に残って介護士をやりたいと思っても、英語もしくは母国語であれば彼らは簡単に受かる実力はあるのですが、日本では日本語の試験に通らないと仕事できません。日本語は、日常会話ができればよい、専門用語は母国語でも英語でもよいのではないかと思います。これは、外国人に対し介護士の試験を落とすための制度です。これに対して全国知事会では、英語での試験を認めるべきではないかとずっと繰り返してきました。やっと今年から英語の試験が認められるようになります。こういった制度上の歪みは、まだまだたくさん残っています。これからは、そうも言うてはいられないので変わると思います。

## 10. 地域おこし協力隊等地域振興政策について

松野町の地域おこし協力隊ということで、今年の3月まで2年間、愛媛県にいた。地域おこし協力隊について伺いたい。愛媛県でも就職したり、起業したりと充実した活動ができていると思うが、国として先日、安倍首相が地域おこし協力隊を8,000人、移住政策も行っていくと言っていた。町おこしの窓口は各市町であるので、県としてはあまり関係ないかもしれないが知事として地域おこし政策などがあれば教えてほしい。

### 【知事】

地域おこし協力隊については、今回、松野町の被災状況を確認したときに地域おこし協力隊の

人数が多く、2週間のボランティアとして活躍してくれていました。地元の方は彼らがいたおかげですごく助かったと言っていました。地域おこし協力隊は、県が呼びかけるのですが、実際は具体的にどう稼働するかは市町に委ねられています。いい事例、成功例をどんどん紹介しながら、市町のなかでの協力隊の活動の価値を上げて積極的な自治体を増やしていくよう促していきたいです。定着率がよく、農業関係で起業したり、レストランを展開したり若者ならではの斬新なアイデア、従来のやり方を踏襲するだけではなく、いのししの皮でアンティーク風のアクセサリーを作って、ネットで販売したりなど結構、おもしろいアイデアが出てきています。そういう人材がたくさん出てくればよいなあと思います。

## 11. 自然を活用したダイビング施設の整備等について

今、知事のおかげで愛媛はサイクリングが有名になってきて、しまなみ海道を渡ってきた人が今治に寄ってくれるおかげで、市内に人が溢れていることが多く、今治に帰ったときにうれしく感じる。もっと愛媛の良さを知ってもらうために何かアピールできるかと考えたときに、愛媛は海がいいなと思っていて、大学のサークルでダイビングをしている。海という産物を生かすためにダイビング施設などを充実させたら県外の方達も愛媛の表面的な良さ、みかんだとかだけではなく体感してもらえないかと思う。愛媛だけではなく四国には、瀬戸内海というすばらしい海があるので、4県で協力してダイビング施設の整備などを進めていただければと思う。

### 【知事】

海を使った施設、一度行ってみたいが愛南町の海は沖縄かと思うくらいサンゴがすばらしいです。シーウォーカーというものがあって、ダイビングは資格が必要であるが、これは、酸素が出るヘルメットをかぶって海中散歩ができます。サンゴの壁を観ながら散歩ができる事業を始めた人がいます。愛南町はダイビングが好きな人には、メッカになっているそうなので、ぜひ行って、SNSなどで広めて欲しいです。

海だけではなく、四国でおもしろいと思っているのは川です。例えば、吉野川では、ラフティングが有名、四万十川はカヌー、松野町ではキャニオニングが流行り始めていて西日本の学生が来ています。ここは自然だけを使った遊び場ができて、一日講習を受けると最後に「雪輪の滝」という50メートルの天然のスライダーを滑ります。僕は怖くて2度とやりたくないと思いました。5年前に始まって当時は、来場者が1,000人くらいだったのが、6,000人くらいになりました。7、8割が県外からの若者、女性が多いです。海、ヨットなども昨年、国体で新居浜がヨットの会場になりましたので、新居浜の高校生たちがヨット部に力を入れ始め、マリーナはもともとありますので市長がヨットを活用したまちづくりをし始めています。

## 12. 起業支援のPRについて

私は、起業に興味があって、東京都で開催されている起業を応援するビジネスプランコンテストに参加したこともある。高校の時から興味があった。愛媛県にどのような支援システムがあるのかは、よく知らなかった。学生がやってみいたいことなどを形にできるような支援する体制などがもっと豊富にあってもよいのではないかと思う。もし、すでにそういう活動がすでにされているのであれば、地方の学生にも届くようなPRをしてはどうかと思う。

### 【知事】

起業については、先程と重複するかもしれませんが、今考えているのは、地元の大学との連携が中心になっています。愛媛大学、松山大学の先生方と組みながらやっています。大学に対して

企業家を育成するようなコースが必要なのではないかと考えて、アイデアコンクールなどをローカルでは実施していますが、確かに県外の学生に対する呼びかけはやっていませんので、今後、工夫が必要なのではと思います。

### 13. 自転車施策について

今後、自転車のPRについて、愛媛県としてどのようなことをしようと思っているのか。

#### 【知事】

サイクリングは、6年前から短期、中期、長期の戦略を考え、第一段階の短期戦略は、しまなみ海道を活用することです。2つ目がしまなみ海道をサイクリングの聖地として周知することです。高速道路も含めて1日サイクリストに開放するイベントをすることです。国は嫌がっていましたが、2年がかりでやりました。日本では最大規模のサイクリング大会で、世界31か国から参加をいただきました。これがSNSで急速に拡散しました。これが第一段階。第二段階は、これを受けて愛媛県内をサイクリングパラダイスにしようとするということです。全県下にプロの目を見た26のサイクリングコースを設定し、ブルーラインを設置しました。このブルーラインは、サイクリストが迷わず観光スポットを回ることができるだけでなく、自動車のドライバーに自転車がいるので気をつけてください、減速してください、という目的があります。もうひとつは、そのサイクリングコースにあるコンビニや食堂・レストランに呼びかけてサイクリングオアシスという看板を掲げてもらい、そこでは、空気入れの無料貸し出し、お水の無料提供、サイクリングスタンプの設置などでお迎えする体制、おもてなしの体制を整えました。

まず、外国人向けにフリーWi-Fiを用意しました。これはお金がかかるので自動販売機メーカーやいろいろな施設にお願いして、自販機などにアンテナをつけていただいでどんどん拡張しました。東京でたまたま食事をしたときに、社長を紹介してもらって「愛媛マルゴト自転車道」というサイトを無料で作ってもらいました。全26コースの地図、起伏、観光スポットがあり、全コース高解像度の動画があります。この会社の社長は無料でサイト作成する代わりに、このサイトのメンテナンスの仕事を愛媛県の障がい者に託してほしいという条件でした。社会貢献になるので無料で作るということでした。この社長は面識はありませんでしたが、日本マイクロソフトの社長でした。

ほかには、毎年11月に愛媛県でサイクリングの日を設定することです。

第三段階は、四国全部をサイクリングアイランドにしようというものです。3県の知事に呼びかけて同じルートで四国を結ぼうというものです。

世界に向けては、世界一の自転車メーカーとタイアップするのが早いのではないかと考え、世界一の自転車メーカーは台湾のジャイアントであるとわかりましたので、台湾へ向かいほぼノーアポイントで創業者へ会って、協力してもらい全世界のジャイアントの店舗にしまなみ海道のポスターを貼ってもらっています。日本の最大メーカーがブリジストンで60万台、ジャイアントは600万台生産していますので、圧倒的シェアがあります。いい出会いがいい仕事につながると思います。

### 14. 新規就農者獲得のための取組みについて

私の実家が八幡浜でみかんとキウイを栽培している。近年、農業の担い手の高齢化とそれに伴う耕作放棄地の増加が目立ってきている。これを解消するには、若い労働力が必要であると思われるが、後継者が不足しているという現実もある。県内、県外からの新規の就農者の呼び込みについてどのような活動をしているのかお伺いしたい。



## 【知事】

農業後継者ですが、農業でも収益をあげていい仕事をしている人はいます。でも、厳しい厳しいという声が広まっています。それを聞くと外の人間は農業ってきつそうだな、儲からないだろうなというイメージができてしまっています。だから後継者が来ません。愛媛県内の農林水産業をやっている153人の人が、ライフスタイルや収入などを公開してくれてデータベースとしてアップしています。農業は、やり方で1,000万、2,000万収益をあげているかんきつ農家だっただくさんいます。でも、それを言ってくれません。新規参入者への制度も整っていて、かんきつの勉強もできるし、軌道にのるまでの収入補助に対しては国の制度があります。いろいろな仕組みがあることを説明する窓口も設定しています。一昨年までの愛媛への年間移住者は、300人位でしたが、去年は1,000人を超えました。かなり増え始めています。

## 15. 愛媛県で働く魅力について

私は今、就職活動を始める時期になり、考えているのが東京で働くのか、地元愛媛に戻って働くのか非常に悩んでいる。愛媛県で働くことの魅力を教えていただければと思う。

## 【知事】

僕も最初は東京で就職をした。帰ってきた当時は、世界の最先端でやっていて、なんでこんなにゆっくりしてしまったのかと思いました。当時は、そのころはパワハラの大絶頂期で、商社といえば月の労働時間が250時間くらい。毎日帰るのが午前1時、2時。次から次へと同僚たちが病院送りになり、生き残りゲームのような感じでした。それが当たり前の時代でした。月曜日から金曜日がそんな生活で、金曜日仕事が終わるとチーム作りだといって土曜日の朝まで麻雀して、朝ごはんを食べて、土曜日は寝て過ごして、日曜日にテレックスの整理のために出勤という生活を送っていました。年末はくじを引いて、誰かが年末年始居残りという状況でした。体力はあったので、なんとかかなりました。世界地図を広げて、仕事自体このタンカーがくれば3億損、でもこのタンカーが到着すれば4億儲かるというふうな毎日でした。

愛媛に帰ってきたとき、全然スピード感が違いました。最初は物足りなさを感じましたが、今は、3日東京にいと早く愛媛に帰りたいと思います。人間的な幸せを感じる時間が少ないです。地方は、いい仕事に出会えたら、余暇時間も長いし、いろんなことが手軽に体験できる空間が身近にあります。しかもコストが安いです。トータルで考えるとどっちが幸せかは、人それぞれだから何とも言えませんが、その両極端を経験したことはお伝えできるかなと思います。